



安い

た野菜類を公設市場の卸売価格であ

の大盛況で、およそ五百人の買

物客が詰めかけました。

化と子供たちの健全育成を図るた

原育子

公園愛護会が連合会を結成

子供たちと公園の手入れも

市街地を中心に四十三カ所ある児童公園の維持管理をしている各公園愛護会が集まり、このほど新しく市公園愛護会連合会(会長 岡野泰浜 公園愛護会会長)を設立。公園愛護デーを設けたり、公園管理優秀愛護会の表彰などを行い、子供たちが楽しく利用できる

公園にするよう、積極的な活動を進めていくことにしています。愛護デーは毎月一回、各愛護会ごとに設定して、子供たちも加わり、清掃、遊具などの点検、樹木の手入れを行うことにしています。浜坂公園愛護会は、毎月第二日曜日を愛護デーと決め、活動を始めています。

また、九月中旬には、愛護会連合会役員が全公園を施設、植樹の二部門で審査、管理の優秀な愛護会を表彰する予定です。

各公園愛護会会長は次のみならずです。◎は連合会副会長、○は同委員。

(順不同、敬称略)

【稲葉山】米山勝美(立川第二) 【修立】大倉幸雄(立川第二) 岡本賢一(吉方) 【久松】田村末男(西町) 林繁夫(なかよし) ○岡

田景(泉) 西村貞夫(東町) 【遷喬】 寿春(相生第四) 木原雷一(相生) ○衣川秀男(元町) 谷村幸吉(元第五) 【明德】岩崎寿雄(太平) 魚町) 藤谷勝太郎(真教寺) 動物) 片上義完(花見) 中原平造(瓦町) 【城北】○渡辺喜好(城北) 【浜服部和雄(さなえ) 中元太郎(古坂) 岡野泰(浜坂) 【醇風】田中英(市) ○山本岩生(行徳) 【日進】斧英龍(南町) 鴨河俊治(寿) 高垣鹿藏(三軒屋) ◎近藤一(二階町) 池上和夫(本町) 田中由夫(鹿野) 富安(岡本賢一(吉方南) ○毛呂町) 福田功(玄好町) 福本三郎(大森) ○池本晃逸(材木町) 石井隆夫(相生第一) ○吉尾狗藏(相生南第一) 安田健吉(富安) 【末恒】 第二) 吉田実夫(相生第三) 谷尾 ◎伊藤美作夫(美萩野)

同和問題 シリーズ

▷ 29



丸岡忠雄が詩「ふるさと」の一節で「父は、ふるさとをかくすことを、獣のようなするどきで覚えた」とうたったように、また、島崎藤村の「破戒」の丑松のように、私も部落を隠し続けて生きてきました。

福田 花枝

私の歩んだ道

昭和三十四年の春、私は高校を卒業、五人の友達とともに大手電機会社として就職し、社会への第一歩を踏み出しました。寮生活は楽しいもの、と胸をは

初めは、出身を隠す

部落解放運動で救われる

ずませて入社しましたが、工場前には、膠を製造する被差別部落があり、悪臭のきつさから、いつもその村のこと、すなわち「部落」のことが話題になったのです。

五人の友達の中の一人は、私と小、中学校とも一緒だったので、私がいけない時には私のことも話が出たのでしよう、友達の私を見る

そばの八木町に一年、京都の洋裁店に一年と、部落を隠すことに精いっぱい毎日でした。が、どこまで行っても差別は追っかけてくるものであり、露骨に差別する人たちもいました。静かな京都の町にも、表面の美しさの陰に差別は厳しく生きていました。一緒に働く仲間が部落をさげすみ、何気なく話す一言一言は、部落を隠し続ける私の心を、ぐさりぐさりと刺したものでした。

京都の生活からも逃げて、明石の工場で再び寮生活をしました。九州や島根県の友達と心を寄せ合

それが、私は部落を隠し続ける生活を始めました。大和三山の

ていいます。

【城北】○渡辺喜好(城北) 【浜服部和雄(さなえ) 中元太郎(古坂) 岡野泰(浜坂) 【醇風】田中英(市) ○山本岩生(行徳) 【日進】斧英龍(南町) 鴨河俊治(寿) 高垣鹿藏(三軒屋) ◎近藤一(二階町) 池上和夫(本町) 田中由夫(鹿野) 富安(岡本賢一(吉方南) ○毛呂町) 福田功(玄好町) 福本三郎(大森) ○池本晃逸(材木町) 石井隆夫(相生第一) ○吉尾狗藏(相生南第一) 安田健吉(富安) 【末恒】 第二) 吉田実夫(相生第三) 谷尾 ◎伊藤美作夫(美萩野)

ていたのです。その上、私は、今もって自分自身を許せない行為をしていたのです。部落を隠し続けるために、差別をする人たちと一緒にあって、相づちを打って部落差別をしていたのです。

なぜ私がここまで自分を偽り、逃げなければならぬのか、なぜこんなにも差別が厳しいのか、その理由も知らなかったのです。結婚して、鳥取に来て解放運動を知りました。隣保館に勤めることができて同和教育の大切さも知りました。差別のしくみを知り、不合理、矛盾に憤りを感じるようになりました。

私たちが部落の間は、自分自身をさげすみ、悲観するいわれはなかったのです。時の支配者が政策のため分裂支配を企てて、部落を利用し続け今日もなお、就職に結婚にその差別意識が社会に生き続

育てるためにも、正しい同和教育を推し進め、解放運動がみんなの手で進められれば、部落を隠す人もなくなり、部落の「完全解放」が達成されると信じています。

(下味野、中央隣保館主事、39歳)